

中標津町都市計画マスタープラン

第2回策定委員会

平成21年12月17日(木) 19:00~
中標津町役場301号会議室

次 第

1 開会

2 議事

(1) これまでの取組の報告

- ・まちづくりフォーラムの開催
- ・第1回策定委員会の開催
- ・第5回庁内推進会議の開催

(2) 全体都市づくり構想

- ・都市づくり上の課題と目標
- ・超長期(都市骨格) 長期(都市構造)の構想
- ・中期構想(都市整備)のテーマ

(3) その他

3 閉会

中標津町都市計画マスタープラン

第 2 回策定委員会

資 料

平成 21 年 12 月 17 日 19:00 ~
中標津町役場 3 0 1 会議室

1. これまでの取組の報告
 - ・まちづくりフォーラムの開催（11 月 5 日）
 - ・第 1 回策定委員会の開催（11 月 6 日）
 - ・まちづくり交流広場への参加（11 月 23 日）
 - ・第 5 回庁内推進会議の開催（11 月 27 日）
2. 全体都市づくり構想
 - ・都市づくり上の課題と目標
 - ・超長期（都市骨格） 長期（都市構造）の構想
 - ・中期構想（都市整備）のテーマ

都市づくり上の課題(案)

下線部の旧表現

町民に大切にすべき環境として高く評価されている2つの環境(“豊かな自然と大地”、“街の基盤が形成された20世紀の近代化遺産”)を大切にしながら、次世代に継承する超長期的な視点での目標像と取り組みが必要です。

地域の発展とともに顕著となっている都市全体の複合的課題を解決しながら、総合計画と連動して将来像を実現するための中長期的な目標像と取り組みが不可欠です。

地域住民の意識が高い地域課題の解決に向けて、地域住民の観点から目標像を設定し、地域住民が主体的に取り組むことが求められます。

- ・
- ・ 新しい総合計画等の
- ・ 地域住民の意識が高い2つの地域課題(身近な自然環境の保全と地域コミュニティ等の再生)

< ちょっと解説 >

- ・ 都市づくり上の課題は、どのような視点で都市づくりを行っていくのかの課題を整理しています。
- ・ 「時間の流れを軸」として都市づくり上の課題を示しており、中標津町の独創的な都市マスの構成「超長期構想(1000年)、長期構想(100年)、中期構想(10・20年)」を導く課題となっています。

豊かな自然と大地とは...

- ・ 武佐岳
- ・ 標津川
- ・ 河岸段丘の地形

街の基盤が形成された20世紀の近代化遺産とは...

- ・ 防風保安林
- ・ 鉄道跡地・道路などの交通体系
- ・ 防空壕跡地
- ・ 空港・海軍による空港建設用道路
- ・ 農業試験場
- ・ さけますふ化場

ワークショップではこんな意見も。。。

- ・ 緑豊かな自然が豊富(川面は特に緑が多い)
- ・ 標津川を中心に武佐川、ケネカ川、俣落川、荒川、タワラマップ川、チナナ川がある。
- ・ 格子状防風林がきれい
- ・ 10年・20年先だけのことを考えるのでは短い。
- ・ 100年・200年先を見据えたまちづくりの議論をすべき。
- ・ 歴史を学び、感じられるまちづくりが必要。
- ・ 過去～現在～未来に繋がる中標津らしさのテーマを追求する必要がある。
- ・ これまでの100年間を知ることが第一。

将来都市像と都市づくりの基本目標(案)

下線部の旧表現

将来都市像

『環境首都 なかしべつ』

我々は、中標津の将来都市像を「環境首都 なかしべつ」と呼ぶこととし、その具体化に向けた都市づくりの基本目標を以下の3点とします。

基本目標

自然環境と歴史環境を大切にした超長期的な都市の骨格づくりに取り組みます。

交流・共生・自律をテーマとした拠点やネットワークからなる長期的な都市の構造づくりを進めます。

総合計画を踏まえ、生活実感に基づいた実効性の高い施策を展開する中期的な都市の整備推進を図ります。

- ・
- ・
- ・ 下線表記を追加
- ・ 新しい総合計画の将来像を実現する

< ちょっと解説 >

- ・ 自然や歴史を大切にし、交流・共生・自律を追求する都市づくりの将来像です。
- ・ 自然や歴史を大切にした都市の骨格（ミレニアムプラン）、交流・共生・自律を追求する都市の構造（夢実現化構想）、地域・人本位のまちづくり（総合計画連動構想）へとつながります。

環境首都とは...

- ・ 自然や歴史といった環境を大切にすなかで、
交流を楽しみ、
共生を重んじ、
自律を追求し、
人間を中心に据えた都市
を実現するための将来の都市像

基本目標の原文

：“豊かな自然と大地”を次世代に継承し、“街の基盤が形成された 20 世紀の近代化遺産”を大切にするために、自然と共生した“持続的な都市”と歴史を積み重ねた“個性ある都市”を目指します。

：町民ひとりひとりが、それぞれの人生を豊かにするための“地域への夢や希望”を叶えるため、様々な魅力にあふれ、深い思いやりに包まれた“交流都市”、地球に優しく、身近なうらおいのあふれる“共生都市”、無駄が少なく、ゆとりある“自律都市”を創造します。

：総合発展計画を上位計画とし、行政と住民のパートナーシップのもと、実効性の高い施策を展開するため、“生活実感に基づいたリアリティのある都市”を整備します。



フォーラムでは小林先生からこんな提案も。。。
「職住が近接したコンパクトな市街地で、その中では福祉、医療が身近に受けられ、中高生や高齢者の居場所があり、自然や景観、農村や食、エコツーリズムやグリーンツーリズムなどの豊かな環境資源を活かした分散型の都市が環境首都中標津のひとつの姿ではないか。」

（超長期）都市の骨格方針 ～ミレニアムプラン～（案）

下線部の旧表現

“自然環境と歴史環境を大切にし、千年先に伝える超長期的な都市の骨格づくり”に向けた構想を「ミレニアムプラン」とします。

“持続的な都市”を創造する「自然との共生」の目標を“都市化以前の状態に近い良好な自然の維持”とし、それに該当する自然環境を大切にします。

“個性ある都市”を創造する「歴史の積み重ね」の目標を“開拓から近代化にいたる20世紀の歴史の継承”とし、それに該当する歴史環境を大切にします。

・大切にされた超長期的

・

< ちょっと解説 >

- ・基本目標を受け、千年先の超長期に渡り守り伝えていく環境を都市の骨格構造としようとする構想です。
- ・次世代の子どもたちに伝えていきたいもの（“自然環境”と“歴史環境”）をまちづくりの土台にしていこうという思いが詰められた構想となっています。

“都市化以前の状態に近い良好な自然”とは...

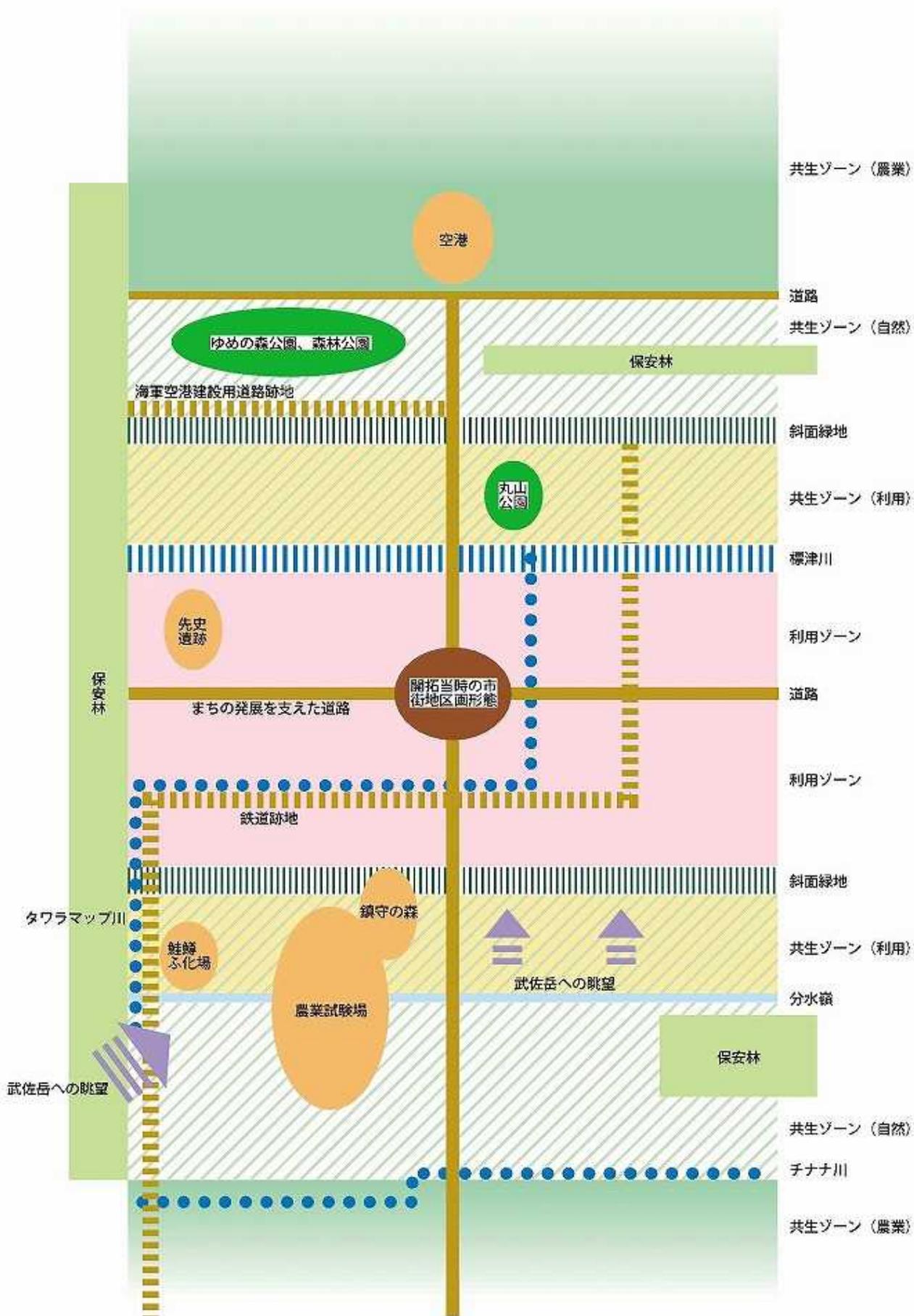
- ・骨格的な河川としての標津川
- ・河岸段丘などの特色的な地形
- ・ゆめの森公園や森林公園周辺
- ・防風保安林の緑地
- ・武佐岳への眺望を確保する空間

“開拓から近代化にいたる20世紀の歴史”とは...

- ・基幹産業の発展に貢献した防風保安林、農業試験場、さけますふ化場
- ・街の発展や人・ものの動きを支えてきた道路・鉄道・空港
- ・市街地発展の礎となった開拓当時の市街地区画形態
- ・町民の心の拠り所となっていた中標津神社周辺の鎮守の森
- ・先人の足跡である史跡・遺跡

ワークショップではこんな意見も。。。。

- ・市街地の中心を流れる標津川を守る。
- ・標津川、町を含めて段丘面の緑を保全。（町に入るルートから見て）
- ・ゆめの森公園の利用拡充を図る必要がある。
- ・防風林を守るのと同時に活用していくことを考えることが必要。
- ・空港という核となる交通アクセスがあり利便がよい（町から空港まで10分）
- ・中標津の歴史、写真をまとめて閲覧できるようにインターネットで公開する
- ・歴史的建造物の保存。



（長期）都市の構造方針 ～夢実現化構想～（案）

下線部の旧表現

“交流・共生・自律をテーマとした百年スパンの長期的な都市の構造づくり”に向けた構想を「夢実現化構想」とします。

様々な魅力にあふれ、暖かな思いやりに包まれた“交流のある都市”を実現するため、世界との交流・広域との交流・地区内での交流のための拠点づくりと多様な移動ネットワークをつくります。

地球に優しく、身近なうらおいのあふれる“共生する都市”を実現するため、中標津らしい風景や美しい景観、自然との共生を促進する地区（共生型利用促進地区）、小河川を大切にします。

無駄が少なく、ゆとりのある“自律した都市”を実現するため、コンパクトな市街地を目指します。

・長期的な都市の構造

・
・

< ちょっと解説 >

- ・基本目標を受け、今すぐには無理でも、中標津で豊かに暮らしていくために理想とする夢や希望を百年の長いスパンをかけて実現していこうとする都市の構造を示す構想です。
- ・その都市の構造を交流、共生、自律をテーマに構築しています。

交流都市とは...

- ・「世界との交流」を促進する空港を中心とした空港活用型活性化拠点の形成
- ・「広域との交流」を促進する市街地中心を活性化
- ・「地域のコミュニティ交流」を活発化する地区交流拠点の形成やパブリックオープンスペースの確保
- ・広域間の移動ネットワーク（空港、広域幹線道路、広域公共交通）
- ・都市内の移動ネットワーク（幹線、歩行者・自転車道路、公共交通）
- ・地区内の移動ネットワーク（補助幹線、歩行者・自転車道路）

共生都市とは...

- ・「中標津らしい風景」である武佐岳への眺望を確保する空間
- ・「美しい景観」を創り出す市街地の中心部と空港アクセス道路
- ・「自然との共生を促進する地区」（共生型利用促進地区）を創り出す東中地区のエゾリンドウ群生地周辺の低未利用地
- ・「小河川」としてのタワラマップ川、チナナ川、ポンタワラマップ川、ますみ川

自律都市とは...

- ・「コンパクトな市街地」を担保する南北の保安林や急傾斜な丘陵地を保全
- ・東西の市街化抑制
- ・車に頼らなくても快適に移動できる交通手段の充実などによる環境負荷の抑制

ワークショップではこんな意見も。。

交流系

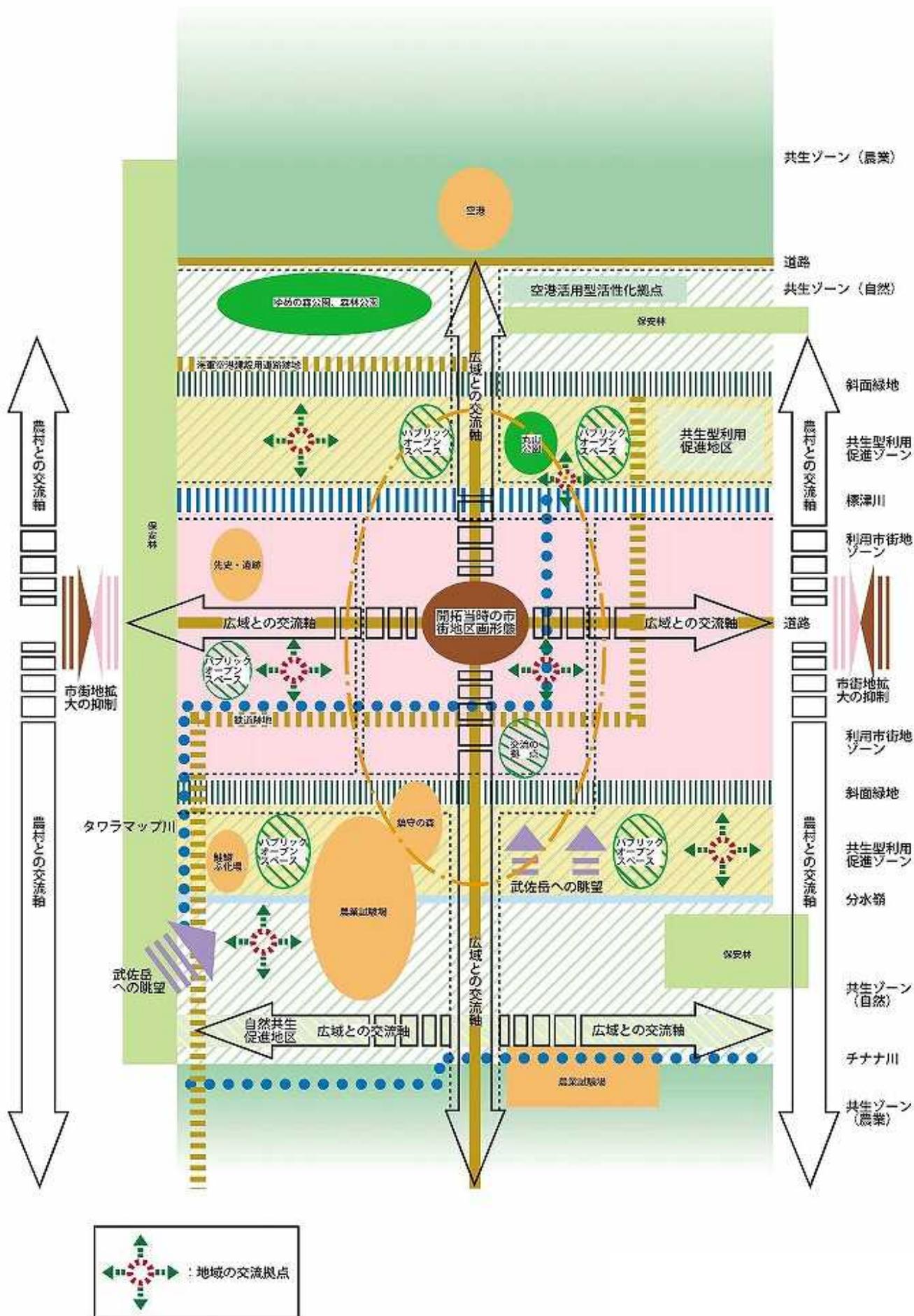
- ・空港を活かし、北方領土との人的・経済交流。
- ・滞在型の観光モデルを形成。
- ・街のなかにいつでも人の集まる場が必要。
- ・人が歩ける、歩いて人が多い町、中心部にする必要がある。
- ・町、川、人が交流できる仕掛けが必要。

共生系

- ・緑と川の景観を残していくことが必要。
- ・タワラマップ川を子供が近づける川にする。
- ・道路は全て並木道にする。
- ・市街地区に緑を多く植える。

自律系

- ・周辺部のことも合わせて考えながら、コンパクトな市街地を考える必要がある。



(中期)都市の整備方針 ~総合計画連動構想~(案)

下線部の旧表現 / 旧まちづくりのテーマ

“第6期総合発展計画と連動し、将来像を実現する中期的な都市の整備推進”に向けた構想を“総合計画連動構想”とします。

・これからの10年、地域の身近な問題を解決するためのまちづくりのテーマは？

・第5期総合発展計画の将来像を実現する

<これまでのまちづくりのテーマ>

誰もが“安心して子育てや生活のできる安全なまちづくり”を進めます。(安全・安心)

レクリエーションと産業の両面からの“地域を元気にするまちづくり”を進めます。(交流・活力)

持続的な発展に向けて自律し、自然や歴史と共生する“地域の教育力を高めるまちづくり”を進めます。(自律・共生)

“冬の快適なまちづくり”を進めます。(快適な冬)

重点的に市街地中心部の活性化と公共性の高い環境のネットワーク化に取り組みます。

<ちょっと解説>

- ・総合計画と連動して、中期的期間の中で、行政と住民のパートナーシップで、実効性の高い施策から取り組んでいこうとする構想です。
- ・身近な地域の問題を解決し、生活実感に基づいたリアリティのあるテーマで構築しています。

安全・安心のまちづくりとは...

- ・高齢者や身障者のみならずすべての住民が、安心して医療や福祉に関するサービスを受用できる市街地中心部の総合的な生活支援・防災拠点化と町立病院や都市公園等を中心とした専門拠点化を図り、また、誰もが安心、安全に移動できる歩行者道路のネットワークをつくります。

交流と活力のまちづくりとは...

- ・市街地中心部の総合拠点化とゆめの森公園や空港周辺等を核とした専門拠点化を図り、多様な移動ネットワークをつくります。

市街地中心部の総合拠点化：

レクリエーション面：・“高齢者や身障者のみならずすべての町民が様々な水準で参加できる多様なスポーツ・レクリエーション環境”、“農業や自然と楽しめる環境”
産業面：・“空港や広域交通体系といった広域交通拠点としての優位性やインターネット等に代表される情報ネットワークを活かし、既存の商工業・流通産業の集積を基盤とした新たな産業振興を図るための受け皿”

自律と共生のまちづくりとは...

- ・環境負荷の抑制に向けた市街地のコンパクト化と同時に、市街地中心部の緑園都心化(地域の歴史や豊かな自然環境を子どもたちに伝える地域教育拠点化)を図り、多様な共生ネットワークをつくります。

冬の快適なまちづくりとは...

- ・北国にふさわしい住まいや冬ならではの楽しみを体験できる市街地中心部の総合的な冬対策(防寒・耐雪・利雪・親雪)拠点化を図り、冬期の快適な交通ネットワークをつくります。

市街地中心部の活性化と公共性の高い環境のネットワーク化とは...

- ・重点的に“緑園都心”と“パブリックオープンスペース・ネットワーク”の創造に取り組みます。

都市の抱える課題（フォーラム WS、庁内推進会議 WS などから）

学識者からはこんなお話も…。

1. 地方としての魅力をうまく生かしたまちづくり
 ・これは、都市的かつ農的な暮らしが可能な中標津の魅力を十分に生かして、都市と農の連携・共生によるまちづくりを行おうという課題です。

・都市と農山村、都心と郊外の交流・連携・共生による持続的な発展を目指すことを“地域共生”のビジョンに。

2. 歴史を学び、感じられるまちづくり
 ・これは、「歴史を大切にす」、「過去～現在～未来に繋がる中標津らしさのテーマを追求する必要がある。」といった意見から得られた課題です。

・都市の魅力は、歴史的な資源と、それに調和する個性によって構成される。（新アテネ憲章）

3. ゆとりの感じられるまちづくり
 ・これは、「歩いて楽しいまち」「幸福感＝ゆとりを感じられるまち」などの意見から得られた課題です。

・21世紀はハード面の単なるコンパクト化だけでなく、ライフスタイルのコンパクト化（スローライフ、地産地消）がキーワード。

4. 安全・安心な生活環境づくり
 ・これは、「災害に強いまち」「犯罪を防ぐまち」といった意見から得られた課題です。

・データに基づく安全対策と社会的紐帯の強化により信頼感のある安心なまちづくり。

5. 高齢者や障がい者が安心して暮らせる思いやりのあるまちづくり
 ・これは、「高齢者・障がい者の集まれる場所を街なかにつくる必要がある。」「高齢者が楽しめる動機付けが街には必要。」などの意見から、高齢者や障害者が、いろいろな交流を図られ、安心して住み続けられる街にしていこうという課題です。

・街区や近隣といった身近な環境の質を高め、子どもと高齢者の居場所を重視する。（新アテネ憲章）

6. 子どもを安心して育てられるまちづくり
 ・これは、「子どもが気軽に遊べる場所がない。」「子どもたちの心の豊かさを育成する。」「子どもにとって魅力のあるまち」といった意見から得られた課題です。

・孤独や無関心、受動性が高まっており、市民・住民が都市やまちに関心を持ち、交流できる環境や場所を整備する。（新アテネ憲章）

7. 若者が楽しみ、夢の持てるまちづくり
 ・これは、「若者集まる場所がない。」「中高生の居場所をつくる必要がある。」「高校生と地域とが繋がってできる活動をつくる。」といった意見から得られた課題です。

8. スポーツが盛んなまちづくり
 ・これは、「スポーツ都市なかしべつを目指す。」という意見から得られた課題です。

9. 人と人とのふれあい、交流のあるまちづくり
 ・これは、「あいさつや思いやりのある人であふれるまちに。」「人間関係を大切にしたい社会環境を整えていく必要がある。」などの意見から得られた課題です。

・都市の特質と活力は、人々の交流で支えられており、交流がなければ都市の要件を失う。

学識者からはこんなお話も…。

10. 協働・共創のまちづくり

・これは、「行政と町民と一緒に協働・共創によりまちづくりを行う必要がある。」、「町民一人一人が出来る事を協力・行動する。」などの意見から得られた課題です。



・住民、まちづくり NPO、企業、行政、専門家による共創まちづくりシステムの構築が必要。

11. 参加しやすい行事、イベント、祭りのある賑やかなまちづくり

・これは、「祭りへの参加は、何か動機づくりが必要。」、「参加しやすいイベントの開催、工夫を。」などの意見から得られた課題です。



・来訪者はもとより、すべての人を受け入れ、都市づくりには住民参加が不可欠である。(新アテネ憲章)

12. 自然環境と調和・共生したまちづくり

・これは、「自然と暮らしが豊かに調和するまちづくりが必要。」、「格子状防風林がきれい。」、「標津川、町を含めて段丘面の緑を保全。」、「環境に取り組んでいる町へ。」などの意見から得られた課題です。

13. 自然豊かな川を守り、活かしたまちづくり

・これは、「自然の流れのままの川を残していく。」、「町、川、人が交流できる仕掛けを。」、「タワラマップ川を中心に川を活用した街づくりを。」などの意見から得られた課題です。

14. 水・空気のおいしいまちづくり

・これは、「水が美味しい、水がきれい。」、「この美味しい水を永遠に続けていく。」などの意見から得られた課題です。

15. 景観や風景の美しいまちづくり

・これは、「美しいまちなみのまちづくりをする必要がある。」、「緑と川の景観を残していく。」、「ゴミのないきれいなまちにしていく必要がある。」などの意見から得られた課題です。



・地域の生業と生活の人文景観の多様さと豊かさにこそ北海道の都市と農村(地域)の魅力の源がある。

16. 酪農、農業の元気なまちづくり

・これは、「都市と農の住み分けが必要」、「(農業の)雇用対策が必要となっている。」、「楽しい農業で生活できる環境であればいい。」などの意見から得られた課題です。



17. “食”の美味しいまちづくり

・これは、「種類が豊富で良質な乳製品がある。」、「歩き、そして食べるグルメの街にする。」、「海、山、川の幸を活かすことが必要。」、「乳製品で魅力的な物を生み出すことが求められている。」などの意見から得られた課題です。

18. 地場産業の元気なまちづくり

・これは、「新しく働く場所、地場産業をつくり若者が張り切って生きていけるようにする必要がある。」、「防風林の間伐材をペレット化して町民ストーブをつくる。」などの意見から得られた課題です。



・地域に根ざした小ビジネス群の開発支援を促進する。(新アテネ憲章)

19. 街中の賑わい再生、市街地の活性化

・これは、「市街地の空洞化が目立つ。」「町民に親しまれ、人が集まる、暮らしやすい、賑わいのある街づくりが必要。」「人が歩ける、歩いて人が多い町、中心部にする。」「街のなかにいつでも人の集まる場（核、ハブとなる場）が必要。」などの意見から得られた課題です。

学識者からはこんなお話も…。

・活気が継続する都市が持っている特質は、多様性と混在・複合性である。（新アテネ憲章）

20. 交通の利便、立地特性を活かしたまちづくり

・これは、「空港という交通アクセスがあり利便がよい。（町から空港まで10分）」「道東（根室～羅臼、別海、標津 etc）の中心に位置し日帰りが可能」「空港を活かし、北方領土との人的・経済交流。」などの意見から得られた課題です。

21. 地域の資源を活かした観光の振興

・これは、「情報発信基地、交流拠点が必要。」「豊富な自然の魅力を生かした観光振興を行う必要がある。」「滞在型の観光モデルを形成する。」「特産物をPRし、特産物を利用した観光を行う必要がある。」などの意見から得られた課題です。

22. 広域連携によるまちづくり

・これは、「周辺の町と連携し互いの良い所を取り入れ、共によりまちづくりを行う。」「PRは、町単独ではなく管内単位で魅力を発信することが必要。」などの意見から得られた課題です。

23. コンパクトな都市づくり

・これは、「都市機能の拡大が見られる。」「街の規模の維持が必要。」「周辺部のことも合わせて考えながら、コンパクトな市街地を考える。」などの意見から得られた課題です。

・放棄された土地を魅力ある安全性のある環境として再生し、交流の場とする。（新アテネ憲章）

24. みんなで行う都市マスの推進

・これは、「都市マスは、中標津の底力をもう一度考える機会。」「都市マスの決めごとを発信し続けていくことが必要。」などの意見から得られた課題です。

・まちづくり教育は、歴史的なセンスと市民の誇りを生み出すために重要である。（新アテネ憲章）

25.

26.

27.

新アテネ憲章：

1998年、EUの都市計画協会が「21世紀の都市・地域が目指すべき目標を“新アテネ憲章”としてまとめた。

これからの都市づくりの方向性は？ そのキーワードとは...？

1. 環境にやさしく、持続的なまちづくり

共生 調和

- 12. 自然環境と調和・共生
- 13. 自然豊かな川を守り、活かす
- 14. 水・空気のおいしいまち

2. コンパクトで歩いて楽しいまちづくり

自律

- 3. ゆとりの感じられるまち
- 23. コンパクトな都市

3. 協働によるまち育て、地域力による暮らしの場と居場所づくり

交流 活気

共助 協働

- 7. 若者が楽しみ、夢の持てるまち
- 8. スポーツのまち
- 9. ふれあい、交流のある
- 11. 行事、イベント、祭り
- 17. “食”の美味しいまち
- 19. 街中の賑わい再生、市街地の活性化

4. 起業によるまち産業・コミュニティ産業おこし

活力 創造

- 1. 地方としての魅力を活かす
- 18. 地場産業の元気なまち
- 20. 交通の利便、立地特性を活かしたまち
- 21. 地域の資源を活かした観光

5. 暮らしの質を優先し、身近な環境を重視した安全・安心のまちづくり

安全 安心

共助

- 4. 安全・安心な生活環境
- 6. 子どもを安心して育てられるまち

6. 住民、まちづくり NPO、企業、行政、専門家のパートナーシップづくり

協働 共創

- 10. 協働・共創のまち
- 24. みんなで行う都市マスの推進

7. 景観を重視し、地域の誇りや個性を生かした美しい町・農村の風格づくり

誇り 個性

風格 継承

- 2. 歴史を学び、感じられるまち
- 15. 景観や風景の美しいまち
- 16. 酪農、農業の元気なまち

8. 高齢者・障害者を街なかに呼べる公共交通中心のまちづくり

安心 共助

- 5. 高齢者や障がい者が安心して暮らせるまちづくり

9. 地域と学校・大学の開かれた連携とネットワーク構築によるまちの再生

連携

- 7. 若者が楽しみ、夢の持てるまち
- 22. 広域連携によるまち

10. 景観まちづくりにおける住民の自律的運営による生活環境の回復

自律

- 15. 景観や風景の美しいまち

キーワード

自律	共生
	調和
交流	活力
	活気
	創造
安全	安心
共助	
誇り	個性
風格	継承
協働	共創
連携	

現計画でのキーワード
 新たなキーワード

今後10年のまちづくりのテーマ（仮案）

1. 共助・協働によるふれあい、交流のまちづくり（仮）

- 3. 協働によるまち育て、地域力による暮らしの場と居場所づくり
- 6. 住民、まちづくりNPO、企業、行政、専門家のパートナーシップづくり
- 8. 高齢者・障害者を街なかに呼べる公共交通中心のまちづくり

解決
課題

- ・高齢者や障害者が安心して暮らせるまち
- ・子どもを安心して育てられるまち
- ・若者が楽しめ、夢の持てるまち
- ・スポーツのまち
- ・ふれあい、交流のある
- ・行事、イベント、祭り
- ・街中の賑わい再生、市街地の活性化

2. 安全・安心なまちづくり（仮）

- 5. 暮らしの質を優先し、身近な環境を重視した安全・安心のまちづくり
- 8. 高齢者・障害者を街なかに呼べる公共交通中心のまちづくり

解決
課題

- ・高齢者や障害者が安心して暮らせるまち
- ・子どもを安心して育てられるまち
- ・安全・安心な生活環境

3. 連携・創造による活力あるまちづくり（仮）

- 3. 協働によるまち育て、地域力による暮らしの場と居場所づくり
- 4. 起業によるまち産業・コミュニティ産業おこし
- 9. 地域と学校・大学の開かれた連携とネットワーク構築によるまちの再生

解決
課題

- ・“食”の美味しいまち
- ・街中の賑わい再生、市街地の活性化
- ・地方としての魅力を活かす
- ・地場産業の元気なまち
- ・交通の利便、立地特性を活かしたまち
- ・地域の資源を活かした観光
- ・若者が楽しめ、夢の持てるまち
- ・広域連携によるまち

4. 個性的で美しい風格あるまちづくり（仮）

- 7. 景観を重視し、地域の誇りや個性を生かした美しい町・農村の風格づくり
- 10. 景観まちづくりにおける住民の自律的運営による生活環境の回復

解決
課題

- ・歴史を学び、感じられるまち
- ・景観や風景の美しいまち
- ・酪農、農業の元気なまち

5. 自律と共生のコンパクトなまちづくり（仮）

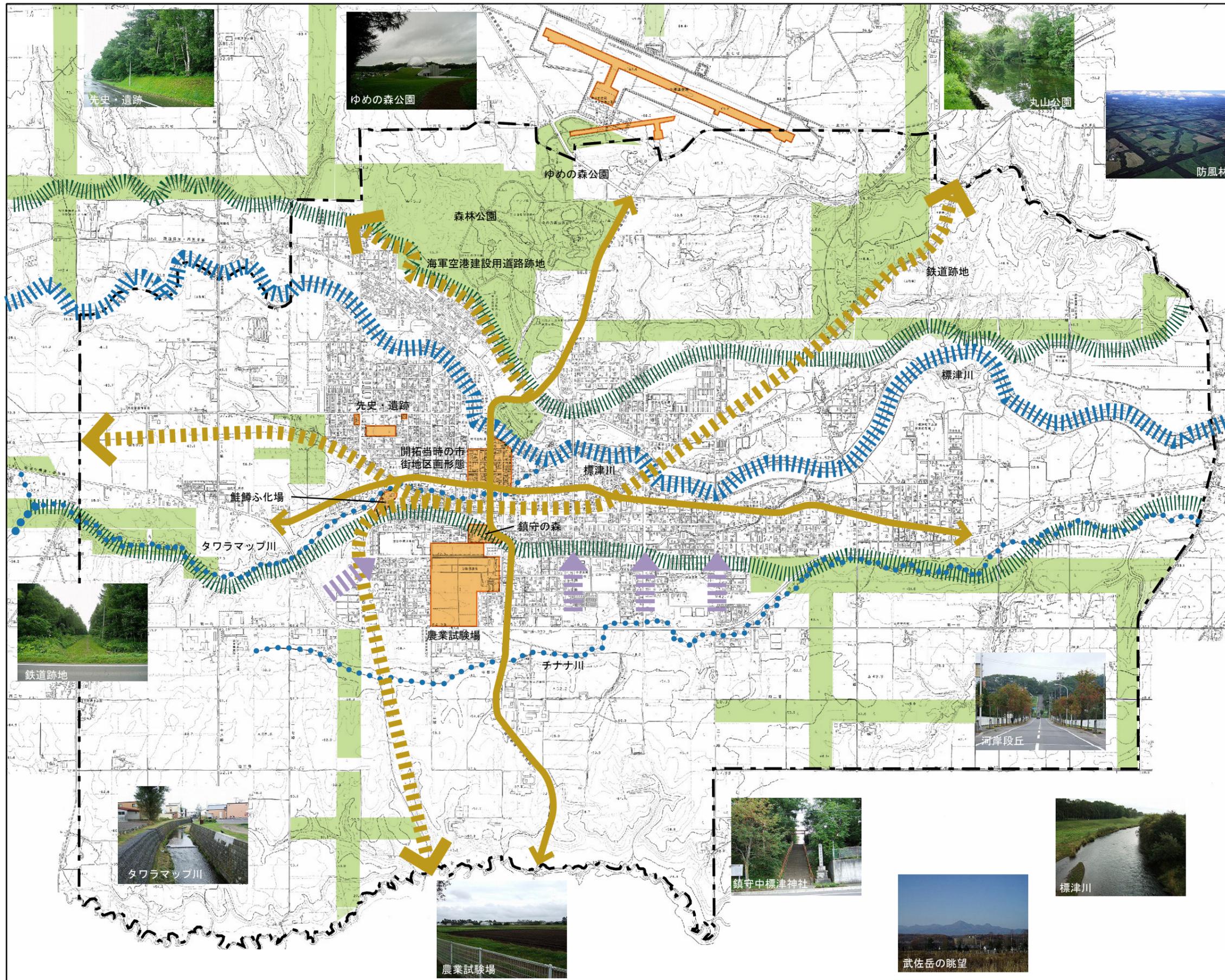
- 1. 環境にやさしく、持続的なまちづくり
- 2. コンパクトで歩いて楽しいまちづくり

解決
課題

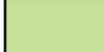
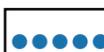
- ・自然環境と調和・共生
- ・自然豊かな川を守り、活かす
- ・水・空気のおいしいまち
- ・ゆとりの感じられるまち
- ・コンパクトな都市

都市の骨格構造

～自然環境と歴史環境を
千年先に伝える
“ミレニアムプラン”～



大切に自然環境

-  保安林・大規模緑地等
-  標津川
-  大事な小河川
-  河岸段丘（斜面緑地）
-  武佐岳の眺望

大切に歴史環境

-  面的記憶
-  線面的記憶
（まちの発展を支えた道路）
-  線面的記憶（鉄道跡地など）
-  都市計画区域界

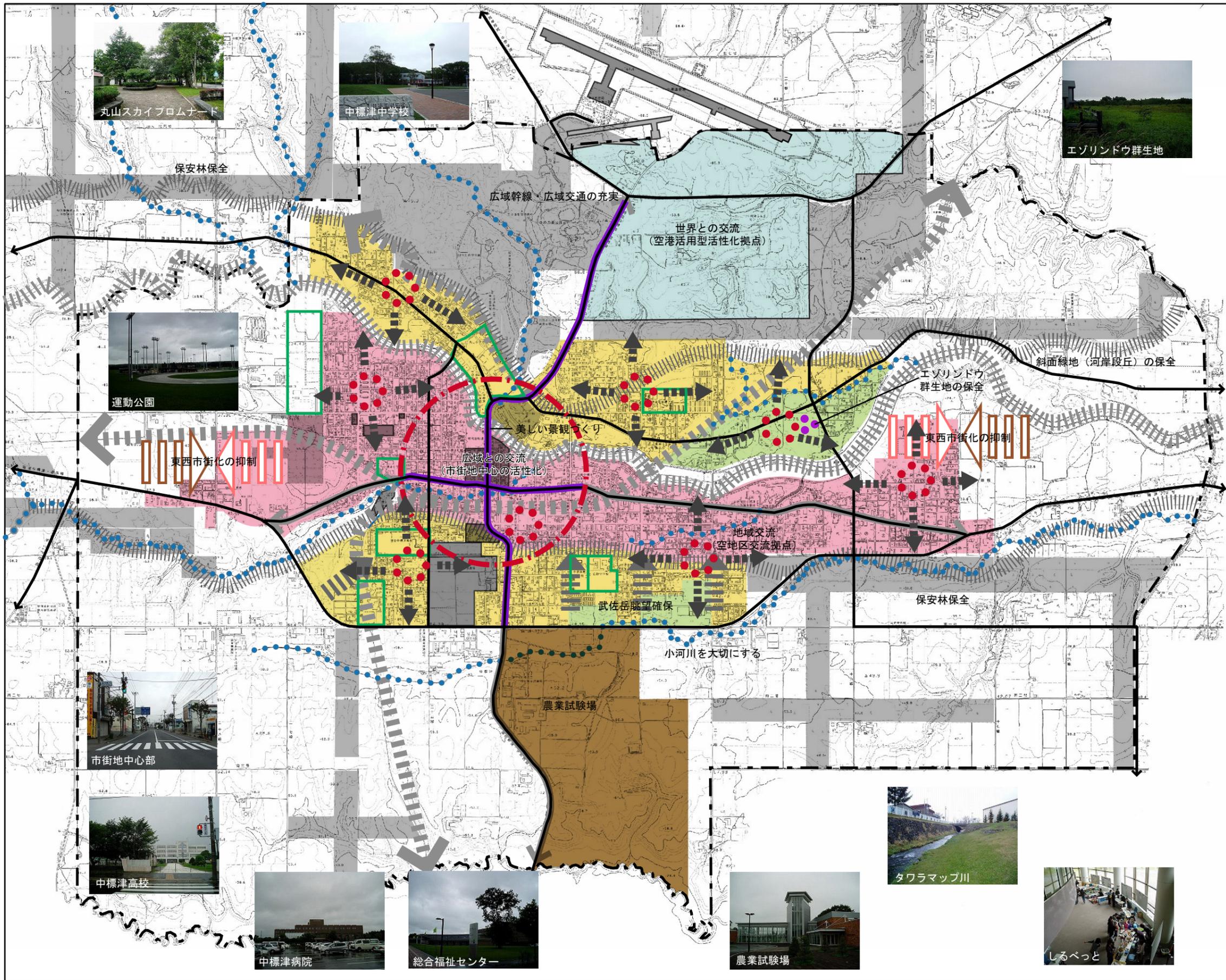
縮尺：1/30,000

0 500 1000

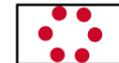


都市の構造

～交流・共生・自律をテーマとした
拠点と軸の都市の構造を百年
かけてつくる“夢実現化構想”～



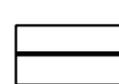
交流都市系

-  空港活用型活性化拠点
-  中心市街地
-  パブリックオープンスペース
-  地区交流拠点
-  地区内ネットワーク

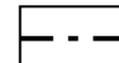
共生都市系

-  共生市街地ゾーン
-  共生型利用促進地区
-  利用市街地ゾーン

自律都市系

-  市街地開発の力
-  農業利用の力
-  骨格道路

大切に自然環境・歴史環境

-  
-   
-  都市計画区域界

縮尺：1/30,000

0 500 1000



中標津町都市計画マスタープラン

第2回策定委員会

別添参考資料

別添資料1 まちづくりフォーラム ワークショップの結果まとめ

別添資料2 第6期中標津町総合発展計画策定に係るまちづくりアンケート調査（抜粋）

別添資料3 まちづくり交流広場・都市マスアンケート調査結果

まちづくりフォーラム（H21.11.5）ワークショップの意見のまとめ

キーワード	現状	問題	課題	提案
1 地方都市としての魅力を活かす	・街としての機能がそろうって生活環境がよい	・地元の良さに気づいていない。	・地方都市の魅力をうまく生かしたまちづくりが必要。	
	・街がコンパクトで住みやすい(15分くらいどこでもいける)	・良いものはあるが、うまく活用できていない。	・町のなかにストーリーをつくる必要がある。	
	・買い物便利、生活に必要な店、企業がある			
	・衣・食・住、基本的に不足はない。			
	・文教施設(プール、図書館etc)が整っている	・公共施設への標識が足りない。		
2 歴史を伝える	・とりあえず病院がある	・医療がもっと安心できれば、道外からも老人が集まる可能性がある		・中標津の歴史、写真をまとめて閲覧できるようにインターネットで公開する
	・大きな公園が多い		・公園を大切にしていきたい。	
			・歴史を学び、感じられるまちづくりが必要。	
3 ゆとりある暮らし			・過去～現在～未来に繋がる中標津らしさのテーマを追求する必要がある。	・郷土館を街の中心部に
			・これまでの100年間を知ることが第一。	・歴史的建造物の保存。
			・幸福感＝ゆとりの感じられるまちづくりが求められる。	・雨宿り空間をつくる
4 安全・安心な生活環境			・歩いて暮らせる、自転車で移動できる街をつくる必要がある。	
			・歩いて楽しい町にする必要がある	・まちなかを歩いて桜、楓を楽しむまちにする
			・散歩コースが色々ある楽しい街が求められている。	
		・橋があるのは当たり前だが通れないときはどうする？	・災害に強いまちづくりを目指す必要がある。	・災害訓練等、地域の一体感のある取組により、共通認識が高まる。
		・犯罪を防ぐまちづくりを目指す必要がある。		
	・街灯に庭の木がかぶさり電灯を隠し暗くなる。	・不在地主の木の管理を地域全体で対応していく必要がある。		
		・一生安心して住める町にしていきたい。		

キーワード	現状	問題	課題	提案
5 高齢者や障がい者が安心して暮らせる思いやりのあるまち	・高齢者の福祉施設がない	・お年寄りの交流の場がない	・高齢者が元気に安心して暮らせる高齢者にやさしいまちづくりが必要。	・高齢者の公営住宅を街なかに
		・(高齢者の)バス券助成がなくなった。	・車を使わなくてもお年寄りが行動しやすい、生活しやすい歩いて暮らせるまちづくりが必要。	・大広場につながっている街(プラットホーム)をつくる
		・10年、20年後、年寄りの行き場はあるのか？	・障がい者や高齢者にとって歩きにくい道をなくすことが必要。	・車に代わるインフラ「ぶどう型」のまちをつくる
		・老人に対するサービスが何もない(他町に比べて)。	・お年寄りがお年寄りを元気づける社会も必要。	・中心地の空き地に児童館と介護施設を併設
		・老後一人になって介護が必要になった時に施設が足りない。不安である。	・高齢者・障がい者の集まれる場所を街なかにつくる必要がある。	・老人ホームと幼稚園を街なかに
			・医療福祉の充実が求められている。	・中心地に老人ホーム、ケアハウスを
			・一人暮らしのお年寄りが安心して暮らせるサポートシステムが必要。	・独居老人、高齢世帯家庭の把握・管理(行政、町内会)。
			・高齢者が楽しめる動機付けが街には必要。	・公園周辺に楽しめる施設を
				・公営住宅、アパート、マンションを街なかに ・障害の比較的重い子のための教育、学校環境を整える ・学校の協力、町内会の意識
6 子どもを育てやすいまち		・子育て情報交換の場がない。	・子どもを育てる体制づくりが必要。	
			・子どもたちの心の豊かさを育成することが必要。(モラル教育が必要)	
			・子どもたちの健康保持環境を整える必要がある。	
			・大人と子どもが一緒に集える場が必要。	
			・子どもたちのたまり場が必要。	
		・使っていない住宅地の空き地の草が伸び放題で環境が良くない。	・子どもにとって魅力のあるまちづくりを行う必要がある。	・会館の利用を子どもたちの遊べる場へ開放。
		・子どもが気軽に遊べる場所がない。	・空き地を活用して子どもが遊べる環境をつくることが求められる。	・空き地を公園にする
			・子どもが多い町に。	・高度な知識ばかりでなく、ゆとりのある教育を行う。
			・子ども達が安心して教育を受けられるまちづくりを行う必要がある。	・タワラマップ川を整備して子ども自由にのびのびと遊べる所にする。
		・若い人たちが安心して働け、子どもを育てられるまちづくりを行う必要がある。	・学校のセキュリティーを充実させる	
			・古い公園の復活(丸山公園、ほかり公園)	

キーワード	現状	問題	課題	提案
7 若者が楽しみ、夢の持てるまち	・高校教育が充実している(中標津高校、農業高校、高等養護学)	・農高の入学生が減少	・農業高校をもっと大事にし、活かすことが必要。	・農高ショップを街なかにつくる。
	・農高で羅臼の深層水利用の商品開発を行っている。		・酪農の町、農高の価値を見直す。	・農高の生徒達によるレストラン運営
			・農高の生徒が酪農に就けるような仕組みづくりが必要	・農校を中標津市街に移転。
			・高校生と地域とがつながってできる活動をつくる。 (そうすることでいずれ彼らが街に戻ってくる)	・中高生が外に出て体験実習、アルバイトをすることでしつけがされる。
			・若い人が社会貢献やスポーツなどで活躍できる場を設けることが必要。	
	・若者の集まる場所は大型ショッピングセン	・若者の集まる場所がない	・中高生の居場所をつくる必要がある。	・街なかに人の呼べる娯楽施設を
		・学生の遊ぶ場がない。	・若い人が集まる施設が必要。	・通信制の大学(介護)。 ・介護関連の施設の誘致。 ・若者が集う大学など誘致
8 スポーツのまち			・スポーツ都市なかしべつを目指す	・役場内にスポーツ課を置く
				・お金を取れる野球場、サッカー場をつくる。
9 ふれあい、交流のあるまち	・ボランティア団体、文化サークルの数が多く、元気がある	・若い人の町内会役員引き受け者がいない。	・人間関係を大切にしたい社会環境を整えていく必要がある。	
	・移住者から文化が導入されてくる	・町内会や老人クラブが高齢者のまちづくり活動の媒体として考えられている	・現在の隣組交流を強くしていくことが求められる。	・町内会単位を小さくする(顔を見えるようにする)
	・人の動きがあり外との交流がある	・街づくり工房元気の若者の会員が少ない(平均年齢60歳)	・若い人たちの町の活性化への参加が必要。	・いろいろな町を転勤して回った楽しい情報の共有化する。
			・家の周りの畑や、花づくり等で行き交う人と気軽に挨拶できるまちづくりが求められている	
			・あいさつや思いやりのある人であふれるまちづくりが求められる。	・基本は大きな声であいさつ。 ・感謝とありがとうの気持ちを自分以外のみんなに持つ。
	・町民はその土地の中で生かされている。	・生かされているという謝恩の気持、意識が足りない。	・お年寄りが持っている文化を次世代に伝えていく必要がある。	
10 協働・共創のまちづくり			・行政と町民と一緒に協働・共創によりまちづくりを行う必要がある。	
			・町民一人一人が出来る事を協力・行動する。	
			・シルバー人材センターの活用方法の検討が望まれる。	

キーワード	現状	問題	課題	提案
11 行事、イベント、祭り	・夏まつり、JAまつり、商工会まつり、伯爵まつりが行われている。	・祭りへの参加は、何か動機づくりが必要。高齢者は特に。	・参加しやすいイベントの開催、工夫が求められる	
12 自然環境と調和したまち	・緑豊かな自然が豊富(川面は特に緑が多い)	・自分には分からないが、町外の人が美しいという。	・自然と暮らしが豊かに調和するまちづくりが必要。	・環境に取り組んでいる町へ。
	・身近な自然		・豊かな自然を守り、大切に する心が必要。	・愛町心～町木、町花など現代にあったモノに選びなおす。
	・市街地内の緑が素晴らしい。	・子供の頃に林や森に色々な虫(クワガタ等)がいたが、今は少なくなった。		・標津川、町を含めて段丘面の緑を保全。(町に入るルートから見て)
	・緑に関する意識が薄く感じる。	・簡単に木を刈ってしまう。		・市街地区に緑を多く植える。
	・格子状防風林がきれい		・防風林を守るのと同時に活用していくことを考えることが必要。	・道路は全て並木道にする。 ・間伐材をペレット化して町民ストーブをつくる。 ・ペレットの会社、ストーブの会社をつくる。 (防風林の管理にもなる)
13 川づくり	・標津川を中心に武佐川、ケネカ川、俣落川、荒川、タワラマップ川、チナナ川がある。	・河川改修が行われている	・釣りの出来るような自然の流れのままの川を残していくことが必要。	・川の改修工事は行わない
	・町のなかで川魚が釣れる川があるのが良い ・街の中心にタワラマップ川が流れている。		・市街地の中心を流れる標津川を守る。 ・町、川、人が交流できる仕掛けが必要。 ・タワラマップ川を中心に川を活用した街づくりを行う必要がある。	・昔の一条橋のような歩道橋を架ける ・タワラマップ川を使って子供からお年寄りまで遊べる公園をつくる。 ・タワラマップ川を子供が近づける川にする。
	・牧場と街を川がつないでいる。			
14 水・空気のおいしいまち	・水が美味しい、水がきれい	・この美味しい水を永遠に続けていく。	・水と土を守って行くことが必要。	・計画外地域にも水道を。
	・水源の多い町(俣落川の水源地etc)	・最近、少しの雨で川の水が濁ることが気になる。		
	・空気が美味しい			
15 景観や風景の美しい町/環境美化	・街なみがとりあえずきれい		・美しいまちなみのまちづくりをする必要がある。	・一人ひとりが自分の住んでいる家屋敷をきれいにする。 (そのことで周りもきれいにする意識を持つ)
	・景観、風景がきれい		・緑と川の景観を残していくことが必要。	
	・新しい物より今ある景観でも十分魅力的。 ・ゴミ拾いをしながら歩いたら2～3年でゴミの量が減ったと感じた。	・街なかにゴミが落ちている。	・公園を守っていく必要がある。 ・ゴミのないきれいな街にしていける必要がある	・通勤でゴミを拾う ・多くの人が歩いてゴミを拾うと街はきれいになる。
		・犬のフンが落ちている。		

キーワード	現状	問題	課題	提案
16 酪農、農業の 元気なまち	・酪農、じゃがいも、大根 ・牧草地の良い風景	・臭い ・農業者の高齢化が進行している。	・都市と農の住み分けが必要。 ・雇用対策が必要となっている。 ・楽しい農業で生活できる環境であればいい。	・公共や企業による支援、指導の仕組みをつくる。
	・北国の幸便を行っている(本州の人との交流、経済流通がある)	・良いものはあるがうまく活用できていない ・中標津の一品は何か？	・歩き、そして食べるグルメの街にする。	・鹿肉ステーキやワインを楽しめる美味しいレストランを中標津に。 ・まんじゅう、茶を食せる店があると楽しい
17 “食”の美味しいまち	・海産物が美味しい		・海、山、川の幸を活かすことが必要。	・山菜を使った食の提供。
				・空地にタランボを植林する。
				・中標津お好み焼き(ホエーで生地をつくり、動産食材を利用)で交流を生む。
				・家の周りをハーブ野菜や花などの畑で囲み、みんなと大きな家族のように食事やお茶、おしゃべりの出来る環境を
	・種類が豊富で良質な乳製品がある (牛乳、チーズが美味しい)	・酪農、乳製品はコストが掛かりすぎる。	・乳製品で魅力的な物を生み出すことが求められている。美味しい乳製品を安く提供することが課題。	・乳製品のスイーツを活かして街なかに賑わいを。
	・そば文化			
18 地場産業の 元気なまち		・中標津で育った若者、転入者の働く場がない ・今後人口は全国的に減少傾向が予測される	・産業、商業、農業の活気のあるまちにする必要がある ・中標津へ帰ってくる若い人たちが働ける場を増やしていく必要がある。	・大型工場の誘致促進。
			・新しく働く場所、地場産業をつくり若者が張り切って生きていけるようにする必要がある。	・防風林の間伐材をペレット化して町民ストーブをつくる。 ・ペレットの会社、ストーブの会社をつくる。 (防風林の管理にもなる)
			・若い人たちが出店できる環境を整える必要がある。	
			・異業種間のコミュニケーションが必要。	

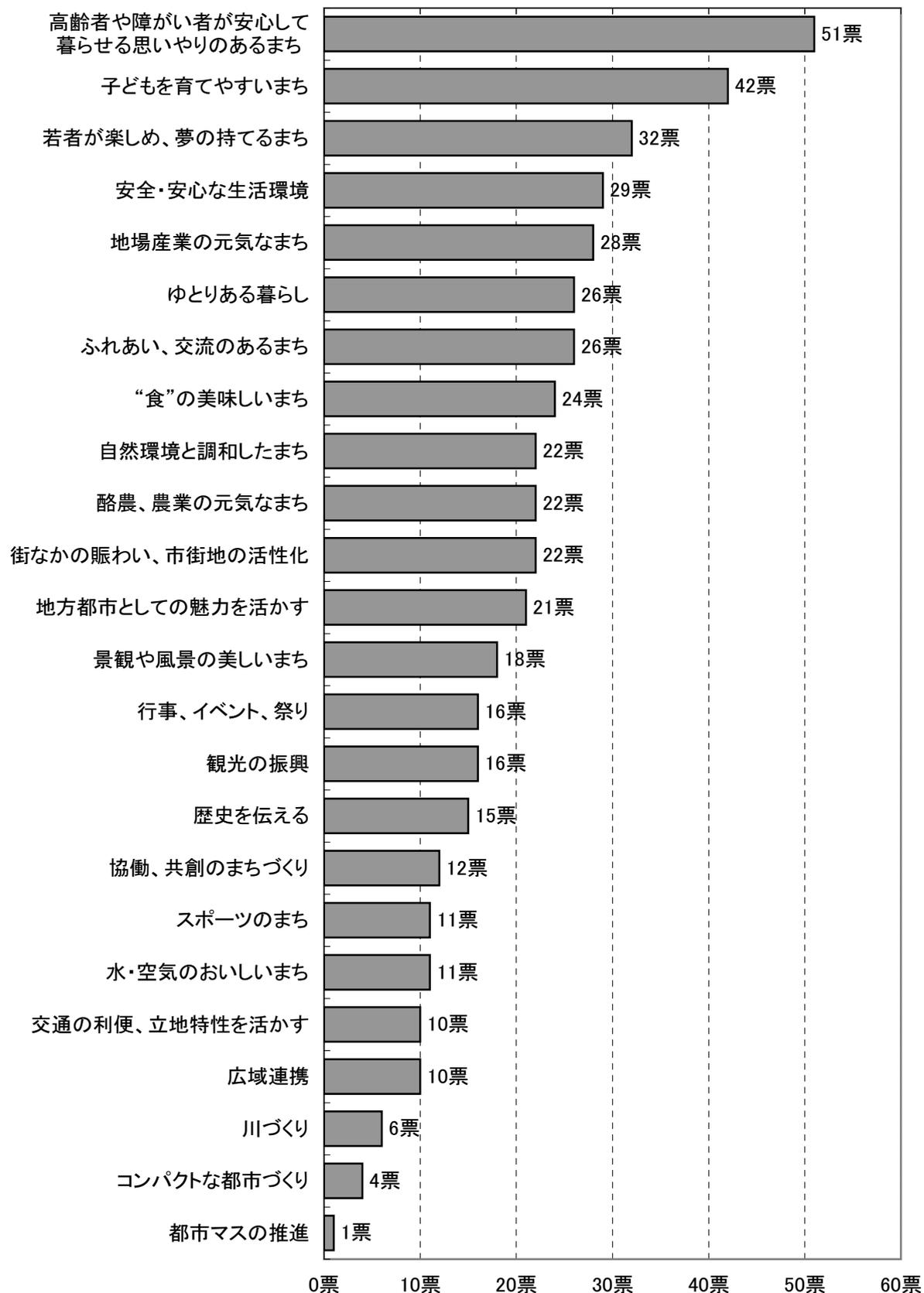
キーワード	現状	問題	課題	提案
19 街なかの賑わい、市街地の活性化	・郊外に住宅が増え、街の中心が移った。	・人が街にいなくなった。	・町民に親しまれ、人が集まる、暮らしやすい、賑わいのある街づくりが必要。	・街なかに役場の機能をつくる。
	・昔は駅中心に人がいて活気があった。	・10年、20年後、家族が生活することができるのか？	・人が歩ける、歩いて人が多い町、中心部に必要がある。	・公共施設を街なかに
	・昔は若い人の活気があった。 ・いろいろなモノがそろった街だった。	・人が歩くことでコミュニケーションが広がる。 ・市街地の空洞化が目立つ	・300m半径内で生活用品等がまかなえる町が望まれる。 ・小さい商店に人が集まるようにする必要はある。	・病院跡地の活用を図る ・商店、喫茶店、定食屋、朝市を街なかに
	・昔は導線のなかに活気があった。		・街のなかにいつでも人の集まる場(核、ハブとなる場)が必要。	・プラットショップ店、アーケードを街なかに(歩いて300~500m)。
	・まちなかを散歩してみると歩道整備も景観も良い。		・中心部へ人をどう移動させるかを考える必要がある。	・見せるお店づくり、連なった店舗づくりを行う
	・コンパクトにまとまっているイメージがある。	・市街地人口の減少に歯止めをかける対策が必要。		・歩行者天国など行って、街のなかに集まれる場所をつくる。 ・バスターミナルを東7条へ
				・病院施設を中心部に配置す
			・空き店舗と空き地の再利用が求められる。	・空き店舗を活用した農高や森の家の商品販売等。
	・店舗と住居が同じ時代があった。		・商店街の活性化が必要。	・店に住みつく
				・全天候型商店街化。 ・地元企業の複合型ショッピングモール化。 ・丸山公園を活かす
	・丸山公園が有効に活用されていない。	・丸山公園の魅力を見直し、丸山公園を絡めてまちづくりをする必要がある。		
			・家族で楽しめる娯楽施設を ・試験場前の地域に広域な公園をつくる。	
20 交通の利便、立地特性を活かす	・空港という核となる交通アクセスがあり利便がよい(町から空港まで10分)	・10年、20年後、交通アクセスは？電気自動車はどうなるのか？	・空港の利用促進、利活用をどうするか。	・空港を活かし、北方領土との人的・経済交流。
	・道東(根室~羅臼、別海、標津etc)の中心に位置し日帰りが可能 ・近くに都市がない			
	・観光地が100km圏内にある			

キーワード	現状	問題	課題	提案
2.1 観光の振興	・商業都市としても、緑と食などPR素材は多数ある。	・観光のキャッチフレーズで何を目玉にするか。	・特産物をPRし、特産物を利用した観光を行う必要がある。	・お土産品に町内の他の店舗のカタログを入れるなどの連携した取組を行う。
	・ゴルフ場がある	・道の駅がない。	・情報発信基地、交流拠点が必要。	・観光案内のプロを育成する。
	・養老牛のモアン山がある	・中標津からの発信が少ない。	・豊富な自然の魅力を生かした観光振興を行う必要がある。	・滞在型の観光モデルを形成する。
	・観光資源となる温泉が多い		・温泉等、観光施設の有効活用をうまく行っていく必要がある。	・温泉を観光の目玉にPR。
				・雪印(トップクラスの企業)を活用する。
	・開陽台はすばらしい	・開陽台のPR		・町の自慢のスポットをつくる。 ・開陽台に東屋をつくる
	・ゆめの森公園がある		・ゆめの森公園の利用拡充を図る必要がある。	・森林公園との一体的活用。
2.2 広域連携	・周辺町村の広域的商業圏を持つ。	・周辺をどう巻き込むか。また巻き込んでいかなければならない。	・周辺の町と連携し互いの良いところを取り入れて、共によいまちづくりを行う必要がある。	・合併して根室管内の中核都市に。
			・中標津だけではなく、近隣市町村も含めて地域周辺全体～道東(根室+釧路)まで広げてを考へて行くことが必要。	
			・PRは、町単独ではなく管内単位で魅力を発信することが必要。	
2.3 コンパクトな都市づくり		・都市機能の拡大が見られる(大きくなっても困る)	・街の規模の維持(コンパクトな市街地形成)が必要	・用途地域を見直し、中心部に併用住宅?や規制緩和。
		・自然を壊しているのも事実。	・今ある基盤整備を活かして行くことが求められている。(ゆめの森公園、空港、ゴルフ場、高等養護学校)	
			・空洞化ではない市街地の再利用を考える必要がある。	
			・周辺部のことも合わせて考えながら、コンパクトな市街地を考える必要がある。	
2.4 都市マスの推進	・都市マスは、中標津の底力をもう一度考える機会		・都市マスの決めごとを発信し続けていくことが必要。	
		・10年・20年先だけのことを考えるのでは短	・100年・200年先を見据えたまちづくりの議論をすべき。	
			・何をつくり、何を残し、何を残すのかを議論すべき。	

都市マスマンケート調査_{in}まちづくり交流広場(2009.11.23)

まちづくりフォーラムで議論いただいた「これからの10年・20年、大切にしたいまちづくりのテーマ」について、私も重要と思う、共感するというものを5つ選んでいただきました。

「重要と思う、共感するまちづくりのテーマ」（総回答者数：97名）



自由回答

自然との共生－河川の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・特に川づくりについては、今行政が様々な工事を進めて居りますが、本当に必要とされているのか、今までの工事を検証し、公共的事業は、川に悪い変化を与えていると思います。 ・梅花藻が生える川に！標津川を！俣落川を！ ・そのためには河川敷に木を！ ・自然を管理保護しつつ、水の美味しい地域づくり（ブナの木を多く）。
自然との共生－活用・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・都会では体験できない“いやし”のある空間～自然とのふれあい、又、人どうしが協調し、輪のある人間社会創りを…。 ・自然を商品にする。 ・美しい景観だったり、食だったり、いろんなものを自然をテーマにつなげて町としての取組にしていきたい。

一次産業・農業を切り口としたまちの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・一次産業が元気でなければ町の活力もあがらないと思う。 ・国の力ばかりあてにしないで町民の力と知恵で小さな事からでも明るい灯りがともるような事が出来るといいなと思います。 ・農業を考える。 ・農業高校を拡大して酪農学園化する。 ・酪農一日体験などで観光名所を増やす。 ・市街地の少し外側にクラインガルテンのようなものがあつたら交流の場が増える。
----------------------	---

観光振興の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に人口を増やし都市化した町をつくるより地方としての魅力を残しつつ今住んでいる人、その子ども…が安心して暮らせる町を望んでいます。 ・そのためにはたとえ通過型でも観光面を充実することも必要かも…？ ・団体が集まる拠点、観光拠点が必要と思う。
---------	---

就労の場の確保～新たな産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史といわれても町の歴史がよくわからない。 ・将来住み続けたいと思うには職場がない。 ・町そのものは住みやすい所なので、定年退職した後、帰ってこれれば良いと思う。 高校生より ・失業者のない町づくりを～税金も払える＝町全体も潤う。 ・中標津の森林資源は豊富と見受けられるが、全国の木材業のきびしい時代、どうやって採算の合う事業に育成していくかが課題となるでしょう。 (何しろ木工場の裏山20kmから運んでくる丸太よりアラスカから船で積んでくる原木の方が安いので困ったものです。)
-----------------	---

イベント等の開催～交流機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・330マラソン開催よかったです。来年も開催してください。今度はフルマラソンで！ ・けっこう有名な歌手とかをもっと呼んで欲しい。 ・行事や祭りが少ない気がするので増やしてください。 ・もっと地域での交流を増やした方がいいと思います。 ・あと、何かイベントがあってもそれを知っている人が少ないので、イベントの告知をしたほうが人が増えるのではないのでしょうか？
------------------	--

あたたかい人の心を育てるまちづくり	・人こそ資源。 ・あたたかい人の豊かな暮らしぶりがなにより大切。中標津のセールスポイント。
	・地域が一番の財産は人だと思います。 ・人を大切にする町づくり。 ・産まれたときからの人育てをしっかりと土台をしっかりとつけてほしい。
	・町づくりの基本に人づくりを。すべてのことにつながっていると思います。 ・教育に関しても言えること。知識を詰め込むのではなく心を育てて欲しい。
	・身近な町内会のふれあいからしっかりとやっていく事が基本だと思います。

地域で支え合う高齢者にやさしいまちづくり	・高齢者等の安否確認等の町内会活動とかも必要と思います。(個人情報等の問題も分かりますが、それにこだわっていると前には進まないと思ってしまう。)
	・老人福祉施設と保育園、小学校は隣り合う場所につくると良いだろう。
	・高齢者から子どもが元気に生活していける。 ・高齢者に対するサービスをお願いします。
	・高齢者の方と障がいのある方とのふれあいがあるというのを、ボランティア活動に入って知るようになったので、一般の方にもわかるように知らせた方が良いのでは？

医療サービスの充実	・産婦人科などがもっと充実して安心して子どもを産み育てやすいように。
	・医師、看護師の他に地域独自の相談医師、アドバイザーをおいたらどうだろう。

地域と行政の連携によるまちづくり	・行政と地域の一体(連携)の町づくり。 (町側から地域にこのような協力、活動をして欲しいとの要望があってもいいし、地域からもここ迄は住民サイドで頑張るから、ここから先は行政をお願いしますというような。)
	・難しいテーマで話し合い等をするのではなく、やさしく誰でも参加できること。
	・地域のリーダーの育成。

若い人たちが地域を理解し活躍できるまちづくり	・若い力をかりて町おこし。
	・高校が二つ特色を持っているので、学習の一つとしてアピールできれば、同じことでも社会人が仕事としてやるのと、高校生がやるのとでは聞き手に与える効果は違うと思う。
	・そうやって地域を考えることで、若い人たちが地域を理解し好きになっていければ10年後、20年後につながると思います。 ・若者にやさしいまちづくりをお願いします。

芸術・文化に触れる機会の高いまちづくり	・音楽、絵画、陶芸…等の芸術との発展と心のうるおいを高める街づくりが大切。
	・美術館や博物館のような公共施設があれば、街なかの賑わい、市街地の活性化につながるのでは。
	・このしるべっとホールを文化の拠点として、芸能文化を深めて、中標津へ行ってみようという気持ちになれるような町づくりを希望します。

賑わいのある街なか	・中心街は車の乗り入れ禁止にし、アーケードみたいにしてネオン看板も統一したら。
	・温泉（良い食事）もあると人が集まると思うが。
	・町中にある空き店舗が景観にマイナスにならないように・・・と思います。
	・街なかを元気に。 ・道路を街のなかへ。 ・道の駅を街のなかへ。

歩いて周遊できる街づくり	・河川敷や堤防などの散歩コースが両岸とも整備されて周遊できるように。
--------------	------------------------------------

魅力ある住宅環境～定住のまち	・北海道らしい住宅づくりをして欲しい。 ・土地が高い。 ・プチ札幌！？中標津らしい町にして欲しい。 ・広い土地にゆったりと魅力ある住宅環境にしてほしい。 (30代。中標津に20年住んでいます。)
	・私は道外から来たものですが、ここに定住したいと思います。 ・標津町では定住活動が活発に行われていますが、中標津町でも土地の斡旋等をしていただけたら助かります。

空港の存続によるまちの活性	・空港が無くなると町がさびれて来る。 ・ずっと空港が存続し、活発で安心な町が中標津ですと大きな声で伝える町づくりを町民と共に活動していきたい。活動の場が広がることを願ってます。 ・空港（定期便）はなくてはならない。
---------------	---

広域連携によるまちづくり推進	・一つの市街地（町）で考えるのではなく、近隣市町村の連携をも視野に入れていかなければなりません。
----------------	--

まちづくり交流広場の開催	・この様な交流会は実行委員も大変でしょうが、皆さんで楽しく出来てすばらしいと思います。
	・今日のような交流会がたくさんあると良いです。

スポーツ施設の充実	・スポーツ施設を増やす（スキー場）。
-----------	--------------------

その他	・この街（町）は魅力に溢れています。 ・やがて（今の子どもたちが大人になった）夢が実現するでしょう。 ・こつこつと夢を育て知恵を出し合って努力したい。道は遠いけれど...
	・すべてリサイクルのビル、住宅、店舗をつくる。（ビルの中が一つの都市のようにして、食料、電気、水、排水、自給自足出来る建物つくる）キャンピングカーのように移動できれば砂漠でも水中でも住めればなお良い。
	・静かな町。笑い声や話し声はOK。 車、飛行機、特に軍用機。（パトカー、消防車...）